



令和5年12月25日  
国土交通省関東地方整備局  
甲府河川国道事務所  
山梨県

## 新山梨環状道路連絡調整会議（第1回）の開催結果について

新山梨環状道路の現在の状況について、国土交通省、山梨県で情報共有を図るため、連絡調整会議（第1回）を開催しましたので、開催結果をお知らせします。

【開催日時】 令和5年12月25日（月）14時00分～15時00分

【開催場所】 国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所 第1会議室

【構成機関】 国土交通省関東地方整備局道路部  
国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所  
山梨県県土整備部高速道路推進課

【議事概要】 別紙のとおり

### <発表記者クラブ>

竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 山梨県政記者クラブ

### <問い合わせ先>

関東地方整備局 甲府河川国道事務所

電話：055-252-5491（代表） E-mail：ktr-koho-koufu@mlit.go.jp

副所長 本住 武司（もとずみ たけし）

計画課長 中村 毅寿（なかむら たかとし）

山梨県 県土整備部 高速道路推進課

電話：055-223-1690（代表）

課長 壺屋 嘉彦（つばや よしひこ）

課長補佐 上野 隆史（うえの たかし）

# 新山梨環状道路連絡調整会議(第1回) 議事概要

## 1. 日時

令和5年12月25日(月) 14:00~15:00

## 2. 出席者

- ・山梨県 県土整備部高速道路推進課 課長 壺屋 嘉彦
- ・関東地方整備局 道路部 道路計画第一課 課長補佐 北田 靖典  
甲府河川国道事務所 副所長 本住 武司

## 3. 議事

### ○事業中区間の状況

- ・新山梨環状道路は、甲府都市圏を取り巻く延長約43kmの環状道路であり、これまでに約5割となる約21kmが開通済み。
- ・開通済み区間では、沿線地域に企業が進出し、沿線自治体の従業者数が約3割増加するなどの効果が発現。
- ・一方で、甲府都市圏では、県道以上の約5割が混雑時速度20km/hを下回るなど、中心市街地を迂回する環状道路の整備が必要。
- ・残る区間のうち国が事業を実施している広瀬IC~桜井JCT間については、調査設計及び桜井地区の用地買収を推進。また、牛匂IC~宇津谷交差点間については環境調査や保全対策を実施。
- ・県が事業を実施している落合西IC~広瀬ICは用地買収、橋梁上下部工、改良工を推進中。  
※未開通のIC・JCT名は仮称

### ○山梨県より提案事項

- ・新山梨環状道路(桜井~甲斐)については、早期整備実現のため直轄事業と有料道路事業の合併施行の計画に変更して欲しい。
- ・国で事業を実施している広瀬~桜井区間の用地買収を県にて一部実施するなど、引き続き事業推進に協力するので、残る未事業化区間である桜井~牛匂区間約10kmについて早期に事業着手を図って欲しい。

### ○今後の進め方

- ・事業中区間については、国と県にて情報共有を図りながら、引き続き早期開通に向け事業を推進する。
- ・事業中区間におけるトンネル掘削に伴う発生土受入地については、事業推進のため、県が主体的に市町村と調整していく。
- ・桜井~甲斐区間については、山梨県からの提案事項を踏まえ、有料道路事業を前提とした道路構造等の検討を進める。
- ・また、桜井~牛匂区間については、山間部に位置し、トンネルや橋梁等の構造物が多く大規模な事業となるため、必要な調査を実施した上で、構造等の詳細な検討を進める。

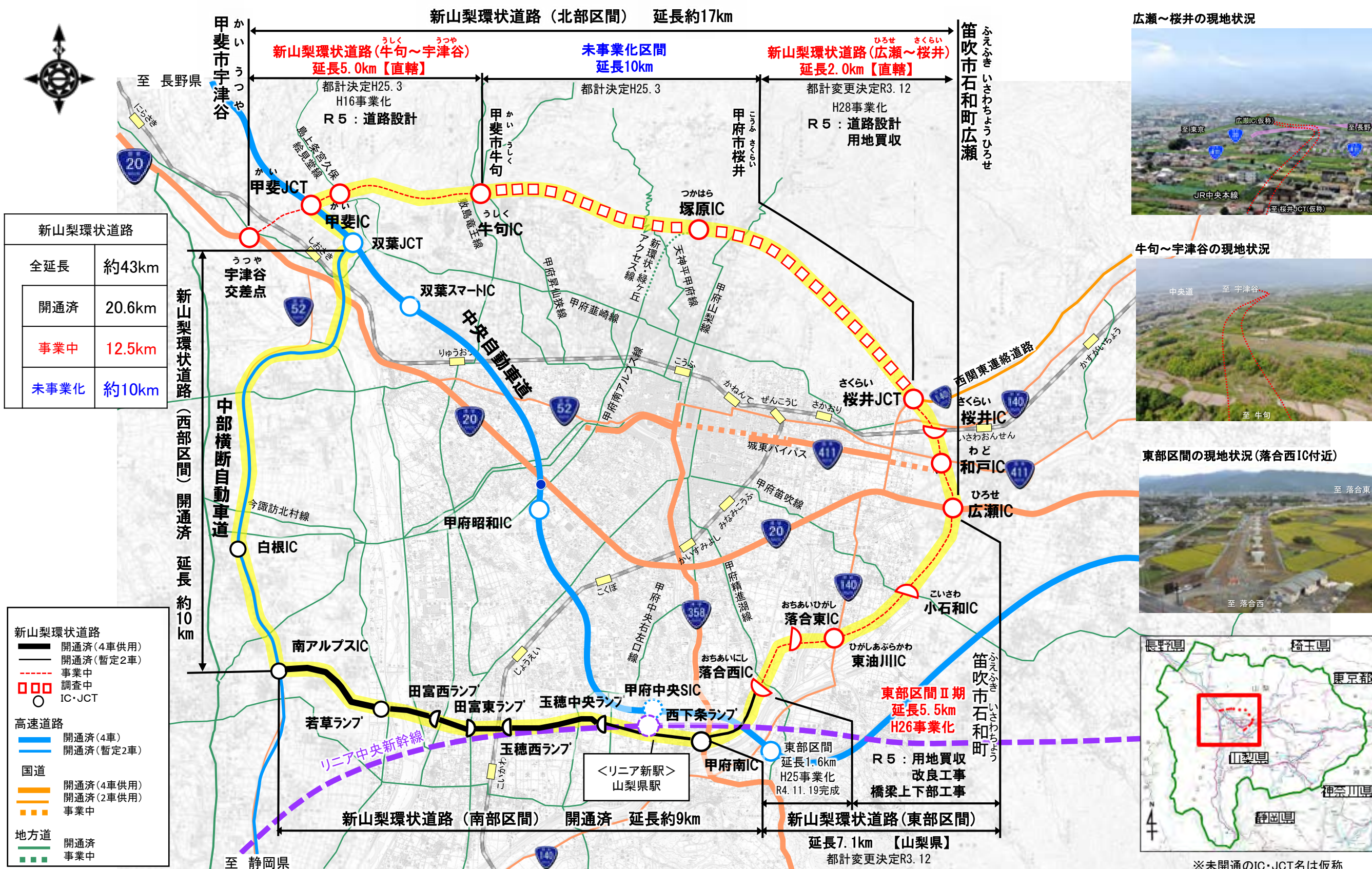
# 新山梨環状道路連絡調整会議 (第1回)

## 資料

令和5年12月25日

関東地方整備局 甲府河川国道事務所  
山梨県

# 1. 新山梨環状道路の現在の状況



広瀬～桜井の現地状況



牛久保～宇津谷の現地状況



東部区間の現地状況 (落合西IC付近)



※未開通のIC・JCT名は仮称

# 2. 新山梨環状道路の整備効果

- 新山梨環状道路(西部～南部区間)の開通に伴い、沿線地域へ企業が進出。
- 過去約30年間(H3～R3)で沿線自治体※の従業員者数は、13,814人(約3割)増加。
- 今後、東部～北部区間の開通により、周辺地域の更なる地域活性化に期待。

## ■位置図



【進出した事業所の例】



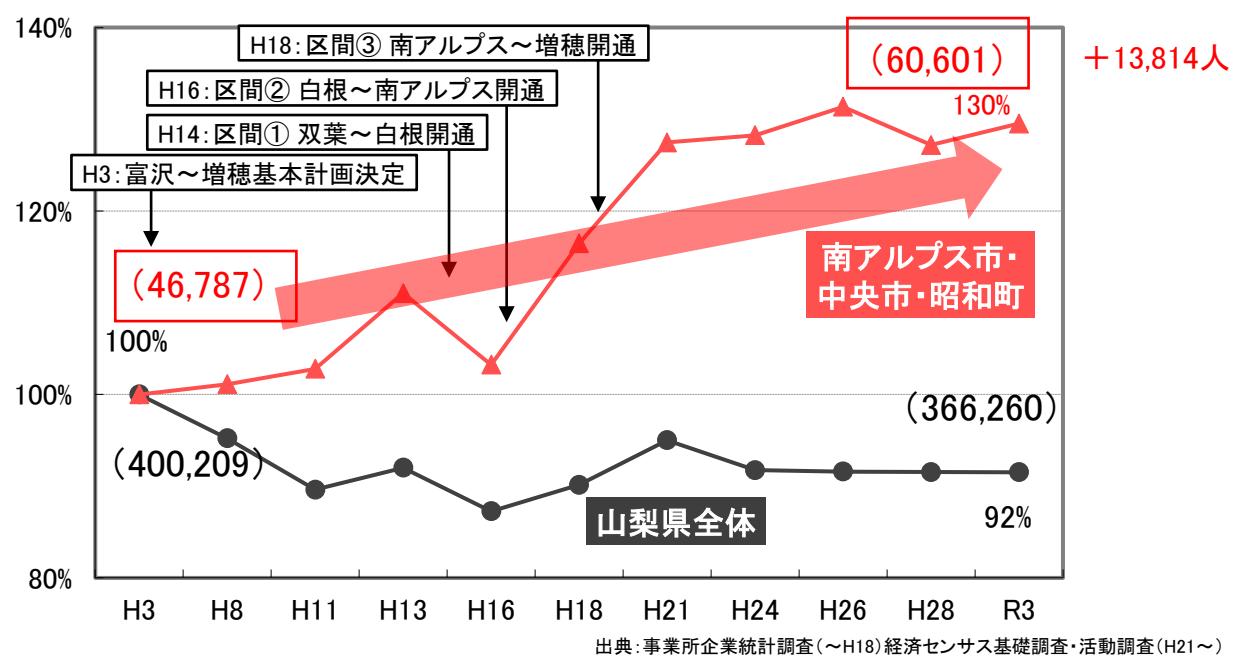
(1) ヤマト科学株式会社南アルプス工場



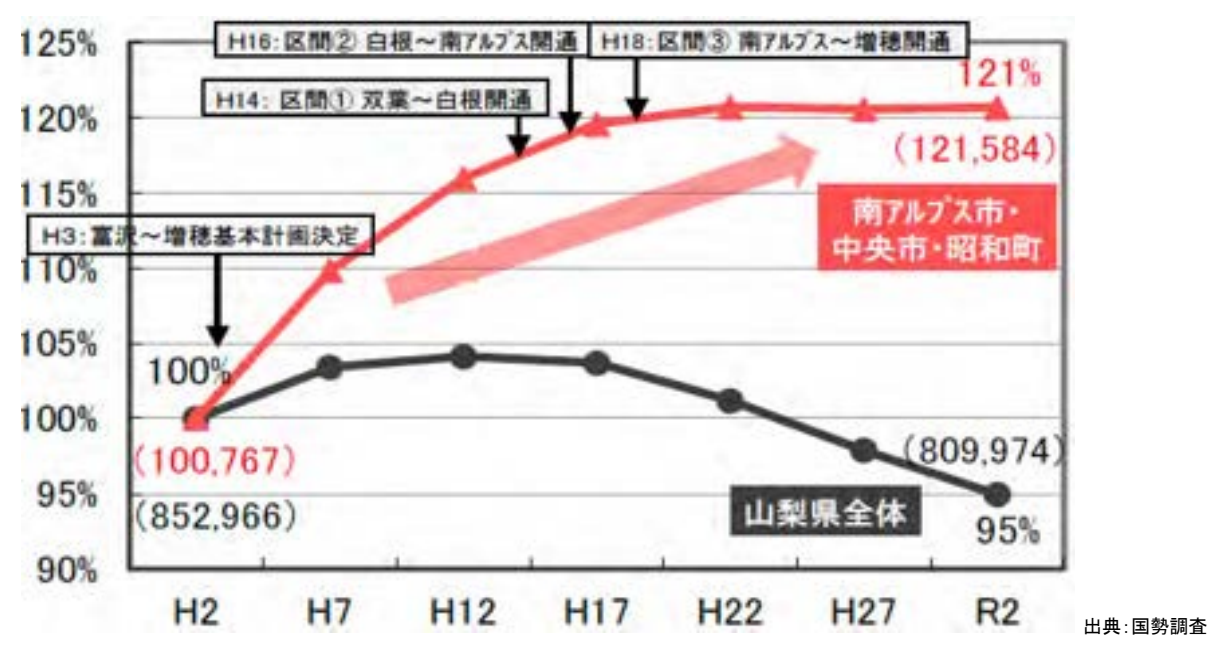
(2) 住友電エデバイス・イノベーション株式会社山梨事業所

出典: やまなし産業立地コミッション

## ■沿線自治体の従業員数の推移(平成3年:100%)



## ■沿線自治体の人口の推移(平成2年:100%)



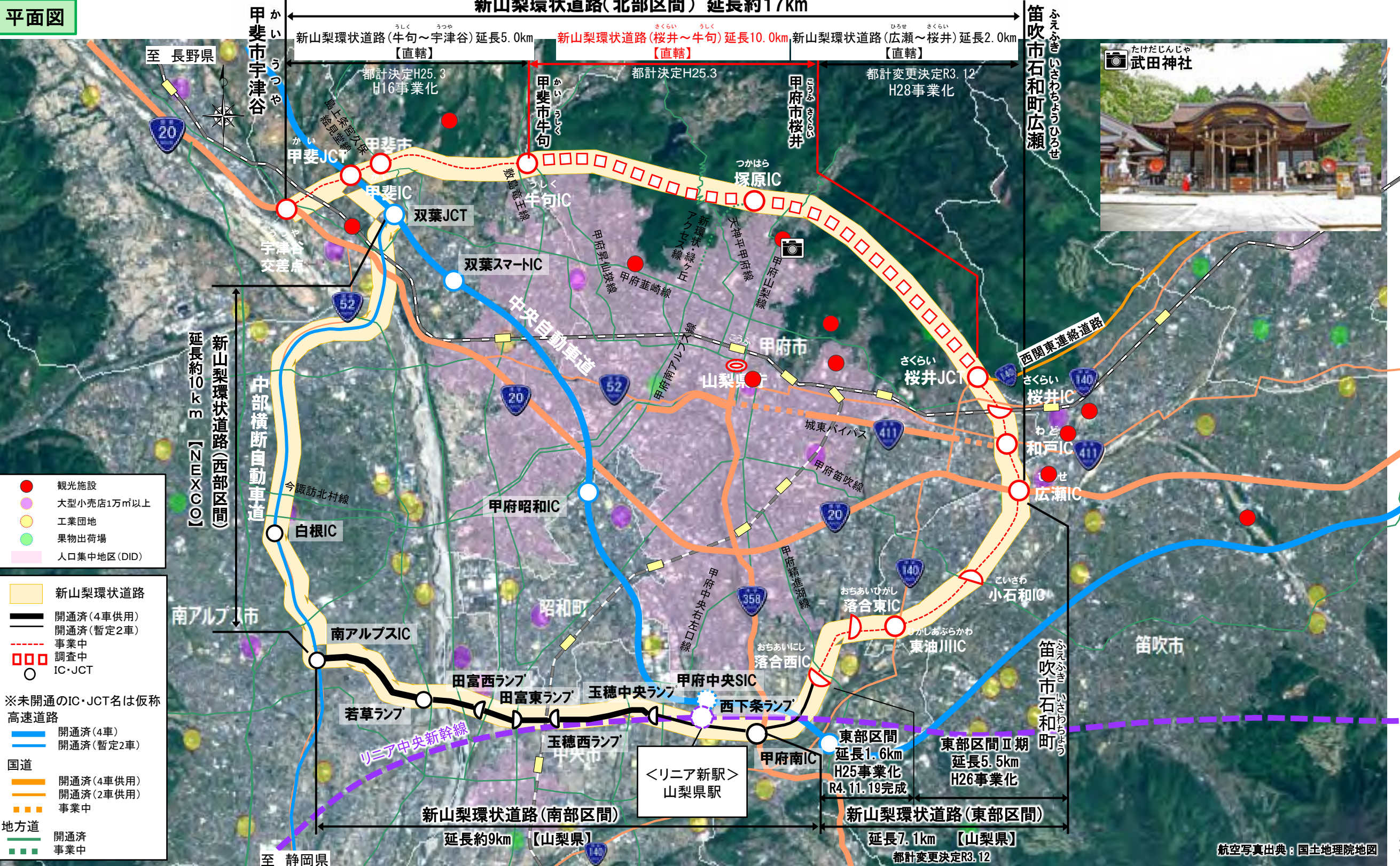
※沿線自治体: 南アルプス市、中央市、昭和町

出典: 山梨県HP([https://www.pref.yamanashi.jp/documents/57867/shinkanjo\\_jinko.pdf](https://www.pref.yamanashi.jp/documents/57867/shinkanjo_jinko.pdf))

# 3. 新山梨環状道路周辺の状況①

○甲府地域は急峻な山岳に囲まれた地形。山梨県内の主要な放射軸として東西方向に国道20号、南北方向に国道52号・国道140号が整備。沿線は人口集中地区となっており、市街地が形成されている。

○工業団地、大型商業施設、果物出荷場、観光地も多く立地しており、山梨県内の中心となっている。



# 3. 新山梨環状道路周辺の状況②

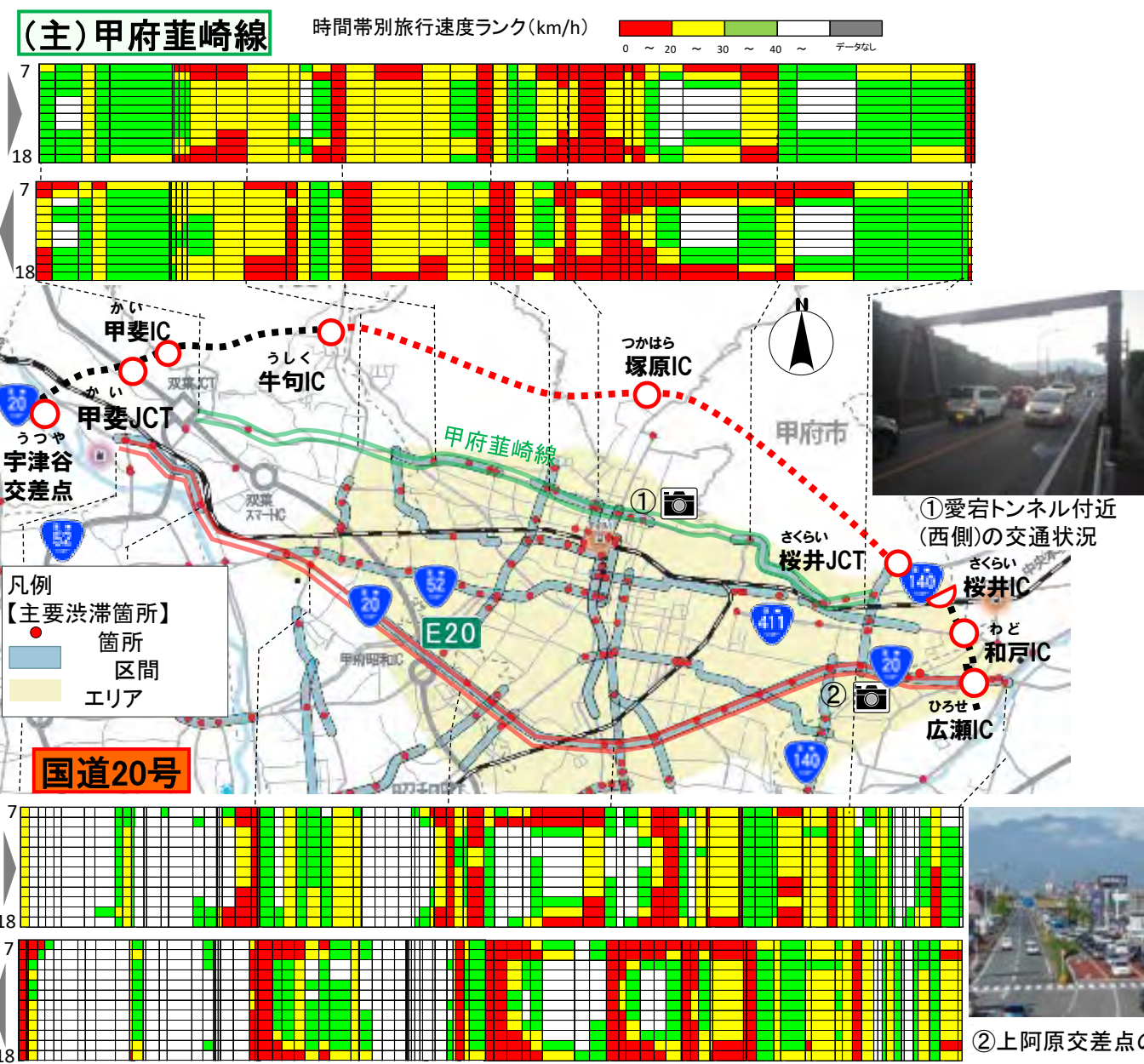
○新山梨環状の内側では、県道以上の約5割が混雑時旅行速度が20km/hを下回っている。



# 3. 新山梨環状道路周辺の状況③

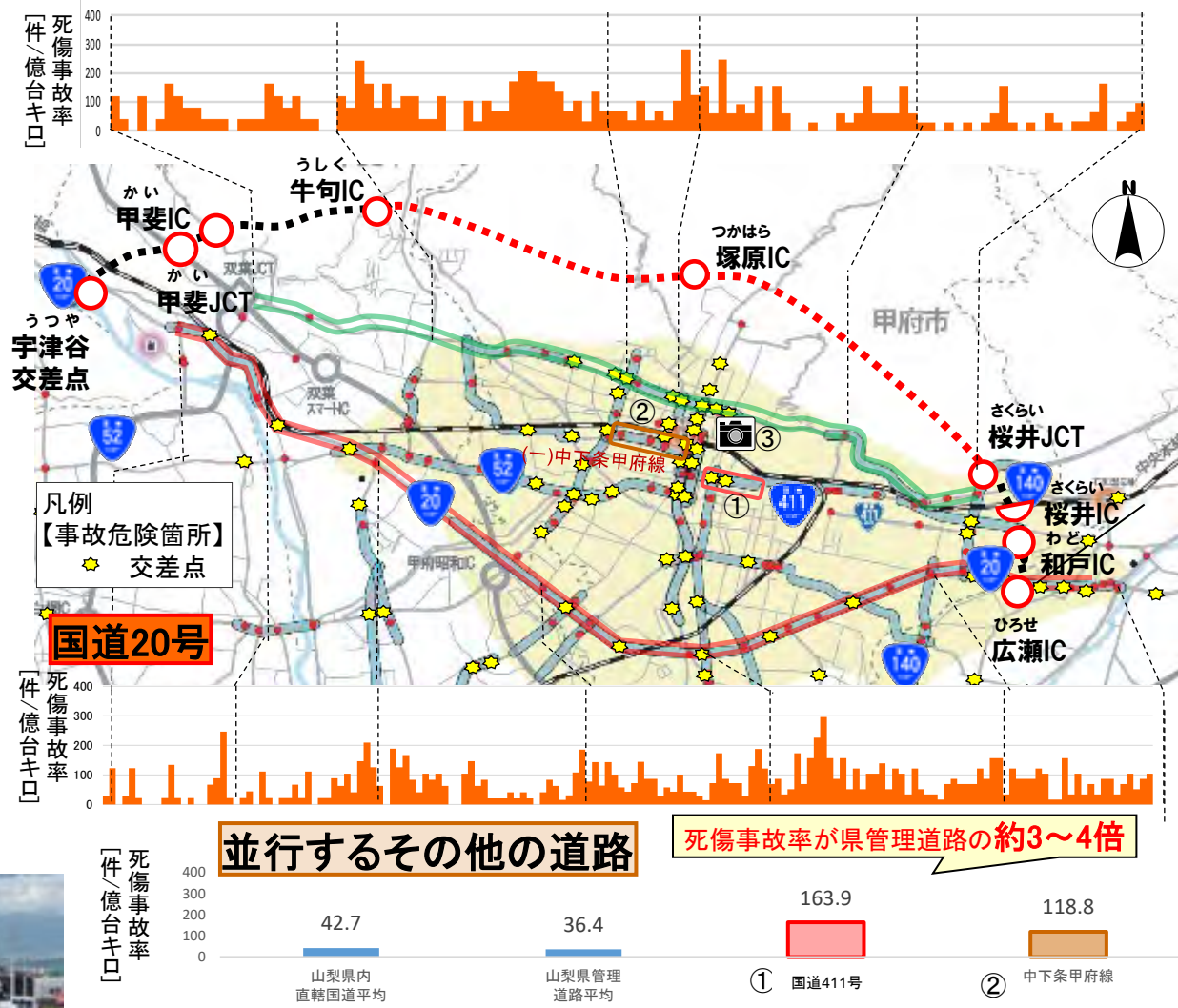
○新山梨環状道路（桜井～牛匂）と並行する国道20号や県道甲府韮崎線では慢性的な渋滞が発生しているとともに、国道411号では死傷事故率が山梨県管理道路の平均の約3～4倍になっていることを確認。

## 国道20号と（主）甲府韮崎線の交通渋滞



## 並行路線の交通事故発生状況

### (主) 甲府韮崎線

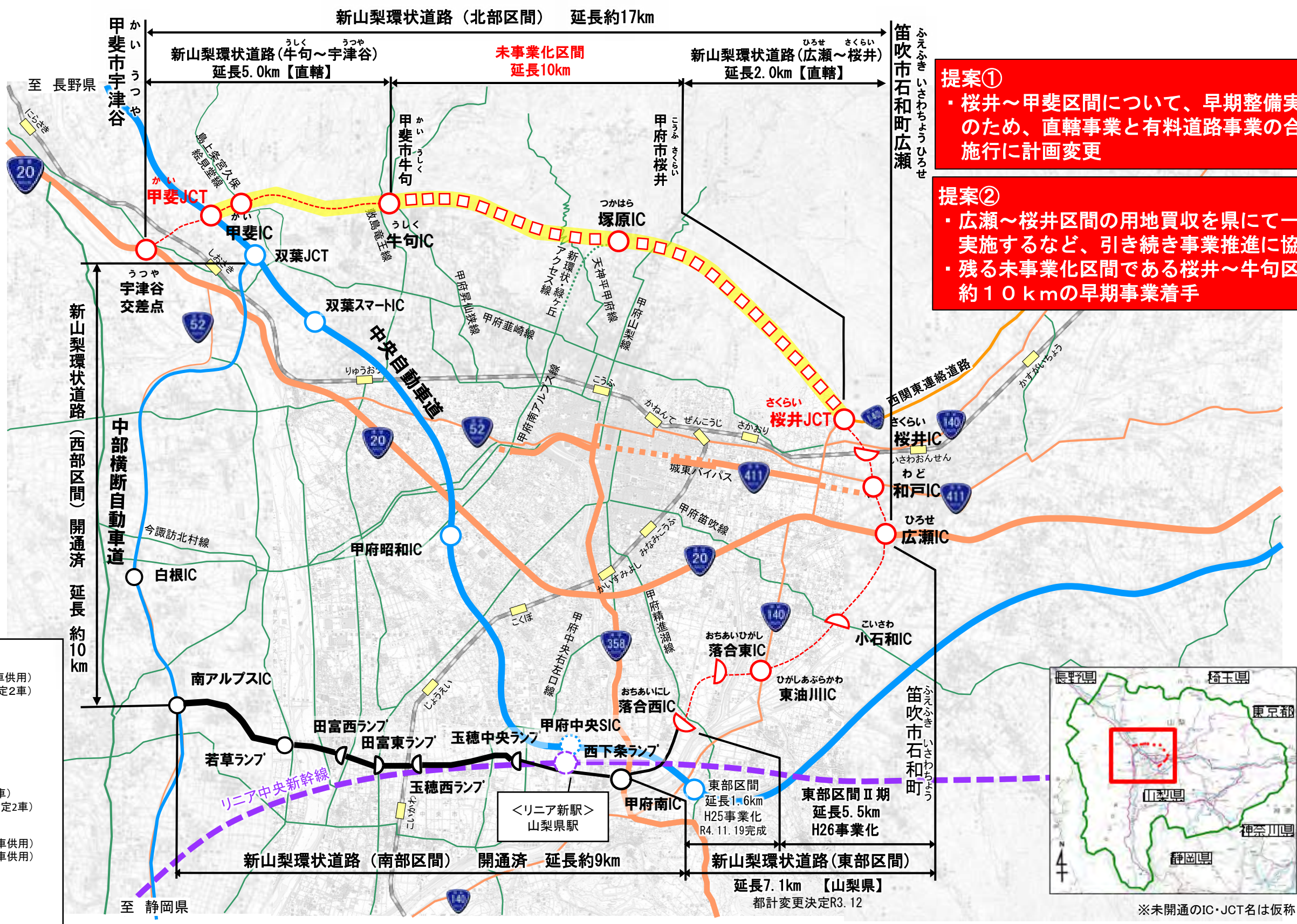


※主要渋滞箇所の定義 箇所…単独で主要渋滞箇所を形成  
 区間…交差点等が連担するなど、速度低下箇所が連続しており、複数の主要渋滞箇所を含む区間  
 エリア…都市部等、混雑区間・箇所が面的に広がっており、複数路線に跨り複数の主要渋滞箇所を含む区域

出典: 事故データ ITARDAセンサス区間別データ(H30～R3)  
 事故危険箇所: 第24回山梨県道路交通円滑化・安全委員会(R4.8.24)より作成  
 写真: 2023年11月撮影



# 4. 山梨県からの提案事項



**提案①**

- 桜井～甲斐区間について、早期整備実現のため、直轄事業と有料道路事業の合併施行に計画変更

**提案②**

- 広瀬～桜井区間の用地買収を県にて一部実施するなど、引き続き事業推進に協力
- 残る未事業化区間である桜井～牛句区間約10kmの早期事業着手



※未開通のIC・JCT名は仮称